

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071200630		
法人名	社会福祉法人 福岡ケアサービス		
事業所名	グループホーム 安養		
所在地	福岡市西区生の松原3丁目13-15 (電話) 092-881-0090		
自己評価作成日	平成23年12月16日	評価結果確定日	平成24年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家族・入居者・事業所との関係作りは特に力を入れており、施設に入居してからも関係性を保っていけるよう、日頃より報、連、相を心がけている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成24年1月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅街の一角にあるケアハウスや在宅介護の事業所に併設されている。敷地内は緑に溢れ木の温もりを生かした家庭的で暖かみのある和やかな雰囲気である。「尊厳を尊重しながら利用者の安らぎと安全・満足を創造する」という理念を掲げ、利用者主体のサービス提供や地域交流を管理者や職員が一同となって心がけ実践している。利用者一人ひとりを大切に残存能力を活用した介護を行っている。家族や地域住民から信頼されている様子が随所に伺える。質の高いケアを実施するため職場環境を整え職員教育に力を入れ、職員が生き生きと働いている。介護計画や記録も具体的に適切になされている。常にサービス向上のため独自の工夫や取り組みを行い、着実に実行している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年事業計画を作成し、その人らしい暮らしを継続できるよう事業理念を作っており、日々実施に向けて取り組んでいる。	「地域社会との共生」を理念に掲げ、地域社会への関わりを重視している。管理者と職員は常に理念の実践が出来るよう、声を掛け合って日々のケアに取り組んでいる。事業計画にも取り入れミーティング時に共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や法人の祭りでの交流以外にも、運営推進会議への地域役員や学校教諭等を招き、交流を断ち切らないように努めている。	自治会に加入し、近隣の保育園・幼稚園・小学校・中学校と交流がある。地域主催の夏祭りや運動会に参加し、事業所主催のコスモス祭には地域住民の参加が多数ある。地域の一員として交流が継続できるようなさまざまな工夫をしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームでの実践を共用型デイサービスに活かすと共に、地域の高齢化問題も運営推進会議の中で議論・検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月行事報告を兼ね、写真をスライドショーにて投影している。他に入居者の現況や地域活動の報告等の協議しており、そこでの要望を聴く貴重な場としている。	運営推進会議は利用者・家族・町内会役員・民生委員・地域包括支援センター職員・小学校教諭等が参加し、率直に意見や要望を言えるような関係作りに努めている。スライドショーで日頃の様子や行事の取り組みを紹介する等の工夫がある。意見や要望はサービス向上に活かしている。会議後は家族同士の交流の場となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族とからの意見や、確認事項などあった際は連絡を取るようになっている。運営推進会議へも7月に参加依頼し、現状を見て頂いている。	行政や地域包括支援センターとは気軽に助言や相談が出来る関係を構築している。名前を覚えてもらうよう密に連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関及び通用口は施設設備の為自動ロック式となっているが、法人全体で身体拘束をしないケアの実践を心がけており、入居者に対し安全に生活できるよう常に検討している。	居室は施錠していない。玄関は自動ロックされているが、職員は利用者の外出傾向は把握し、利用者の行動を妨げない配慮をしている。身体拘束を行わず安全に暮らせる取り組みを工夫している。内部研修で職員間に十分に意識化・共有化され実践されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の内部研修実施を行うと共に事業所内でも虐待に繋がるケースを防止するよう、職員と話す機会を持っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを活用し周知支援に取り組んでいる。運営推進会議でも地域包括のケアマネージャーと共に家族への周知を実施している。	入居時や運営推進会議にて利用者・家族には説明している。制度について内部研修で学ぶ機会を設け、共有化が図られている。パンフレット・研修記録・報告書がある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できる限り時間をとり、話すこと・お互い納得を出来るように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見を元に家族に呼びかけ、共に検討したり、意見箱の設置や日頃より家族と話をすることで意見を傾聴していけるよう配慮している。	毎日の関わりの中で利用者一人ひとりの思いや要望の声に耳を傾け、その把握に努めている。家族から意見や要望を出しやすいように声かけや環境作りに努め、出された要望はプランに反映して具体的にケアに活かす取り組みを行っている。意見箱も設置している。第三者相談窓口については契約時に説明している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個人面談時に合わせて自己申告シートの提出により、意見や提案を聴く機会を設けている。	自己評価は全職員の意見を聴取して取り組んでいる。事業所独自の自己申告シートを使用して意見や提案が気軽にできる仕組みを作っている。日々の申し送りやミーティングで意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。管理者は積極的に職員の気づきを日常のケアに取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通しての情報収集が主となるが、研修参加の啓発に努め向上心の維持・向上に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>特に制限等は設けていない。職員それぞれの能力を活かし、働く場で自由に意見交換も出来ている。</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢等に関係なく適性を考慮し決定している。職員の能力がより発揮できるよう、能力や経験、希望に応じた研修への参加や、自由に意見交換できる雰囲気作り等の配慮がある。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日々の業務内でも確認を取りながら話をしたり、法人内部研修にも組み込み教育・啓発を心掛けている。</p>	<p>職員研修で高齢者の人格の尊重や虐待防止などの理解を深めている。事業所の理念でもあるため、研修やミーティング・日常業務の際など折に触れ、教育・啓発に取り組んでいる。研修資料や報告書も保存している。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修の実施や外部研修の参加により職員のスキルアップに取り組んでいる。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修への参加や地域ブロックの交流会に参加し、相互の情報提供によりサービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前より本人との面談を設けるなど、傾聴に努めている。また、入居後はケアプランに反映することが出来るよう努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前より本人同様面談を行い、不安や要望について傾聴している。入居後も引き続き意見を聴く機会を行事などを交えながら設け、より良い関係づくりに努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の健康面や精神面の把握に努め、必要時は介護保険以外のサービス利用も視野に入れ、本人家族への相談援助の対応を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を探し、可能な限り生活上にて助け合いながら関係構築に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に接する機会を設け、本人の状態を知って頂いたり、家族を交えた支援を心掛けている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族にも協力いただきながら出来る限り支援させていただいている。	利用者の馴染みの人や場について本人・家族から聴取して把握している。独自の様式を作成し家族に記載してもらう等の工夫がある。馴染みのうなぎ屋で食事をする、友人に会いに行く・訪問してもらうなど、つながりを継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性に配慮しながら、活動して頂けるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も次の利用サービスの相談援助に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話等の中から本人の思いや希望等を把握するよう努めている。又、家族の話の中からも本人の思い等を模索している。	日々の暮らしの中で直接声をかけて聞いたことや気づいたことは記録に残している。利用者の暮らし方の思いが反映できるように入居時の情報も参考にしながら、いろんな方面から意向や思いを把握し、ケアカンファレンスを行なうようにしている。小さな変化を見落とさないよう努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より家族からも生活歴等の情報をフェイスシートを通じて把握している。本人からも傾聴に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや日々の変化を見逃さないよう観察に努め、現状の把握・記録共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に本人・家族との情報交換を行い、ケアプラン作成に活かしている。三か月に一度の作成更新を行い、入退院や状態の変化があればその都度見直しを行っている。	介護計画はプランチェック表や申し送りノートを活用しながら実践と評価、気づき等を反映させている。計画作成者も多方面からの情報を収集し、利用者の状態の変化には随時見直しをしている。状態が安定している場合は、3ヶ月毎に個別的な計画作成を行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・プランチェック表・申し送りノートを活用し、情報を共有しながら実践や計画の見直しに反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や園児交流などで定期交流を図っており、それ以外にも日常的に地域に出かけるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を持ち、受診や往診を取り入れている。スムーズな相互連携の為に定期的に会議の場を設けている。	協力病院の訪問診療もあるが、利用開始前の受診経過、利用者や家族の受診希望を把握して、基本は今までのかかりつけ医による受診の継続を家族主体で行ってもらっている。状態変化や突発的な場合もあり、通院介助を行う場合は、通院介助の方法や情報の伝達方法について話し合いをして合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と協働しながら、受診等の検討を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院に向けた情報交換を家族や担当職員を交え、医療機関と連携のもと実施している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の看取りの指針を御家族へ説明させていただいている。その上で家族や協力医療機関及び訪問介護と連携し、方針をその都度共有している。	重度化や終末期のあり方について事業所の対応方針は明文化されている。支援方法についても入所時および必要時には家族へ説明をして、職員も共有、状況変化に応じた話し合いを重ねている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	手順の周知や、内部・外部での緊急時対応研修への参加することで、緊急対応に備えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内での訓練の実施や、外部研修への参加を行っている。近隣地域の避難場所にも指定されている。	マニュアルに基づき、年2回避難訓練を実施、避難経路の確認や消火器の使用方法まで行っている。運営推進会議にて地域住民の参加呼びかけを行っている。棟続きで併設されたケアハウスの中に、飲料水、食料品等の備品を準備している。家族の提案により、家族用に緊急連絡網を作成して、有事の際に備えている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護の職業倫理として念頭に置き対応している。それぞれに失礼のない対応を心掛けている。	職員は、その人に応じた声かけ（声のトーン、大きさ）を工夫しながら、利用者本人の誇りやプライバシーに配慮して、さりげない対応を心掛けている。また、知り得た秘密は他言しないよう徹底している。内部研修やミーティングの場で話をして、職員の意識向上、認識徹底を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面で本人の希望を優先、または選択できるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かくスケジュールは決めず、起床時から本人のペースに合わせ一日の流れを立てている。業務手順やスタッフの行動についても常に見直し・確認を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の移動理美容サービスの他に地域の理・美容室にて散髪を出来るよう配慮している。また、家族による散髪もして頂いている。洋服や髪に限らず、爪の手入れなど女性らしいおしゃれを出来るよう機会を設けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフ・入居者が同じテーブルにて食事をし、嗜好の把握に努めている。また米とぎや洗い物等入居者と共に行っている。	職員と利用者は一緒にご飯を茶碗によそう等の準備や、皿を洗う等後片付けを行い、同じテーブルで同じ物を食べる。利用者一人ひとりの嗜好を把握、月1回の給食ミーティングにて検討を重ね、刺身など献立にも工夫をしている。敷地内で収穫した芋等を取り入れるなど、食事が楽しくなるよう取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックは日々行い、状態変化に応じて補助食品を使用している。食事形態もその都度変更し提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に本人の口腔ケアを促しているが、細かいところはスタッフにて介助している。また、定期的に歯科と相談し治療できるように配慮している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムに沿って支援している。薬だけに頼らず、食べ物・飲み物を工夫しながらスムーズに排泄できるように努めている。オムツやパッド等は個人の皮膚状態に合わせ選択している。	職員は利用者一人ひとりのサインを把握し、尿意のない方を時間を見計らって誘導したり、失禁した場合には手早く周囲に気付かれぬ等の配慮をしたりして対応している。自立支援の方針のもとで、おむつ等の使用の有無、種類や根拠は、排泄チェック表や記録により情報を共有、家族にも相談して支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳やヨーグルト等乳製品の提供を行い下剤を出来る限り使わず排便があるように工夫している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴前には、必ず本人に希望を聞き無理を強いないように配慮している。また、入浴日を固定せず、本人の希望を第一に提供を行っている。	利用者本人のこれまでの生活習慣や希望に合わせて職員のシフトも調整して毎日でも入浴できるように支援を行っている。入浴を拒否される利用者に対しては、無理強いしたりはせず、本人の意向を大切に声かけ直すようにしている。イベントとして蜜柑湯、菖蒲湯、ゆず湯などを行って、入浴が楽しいひとときになるよう工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況やその日の活動量に応じて休息を取り入れている。日中に活動を増やす事で夜間の安眠につなげていけるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に家族を含めて相談を行っており、本人に適切な薬剤の提供を心がけている。薬剤情報はファイルにまとめ往診・受診時の相談や変更を常に行えるようにしている。影響が見られたり長期にわたる服用については見直しを行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望はもちろん、家族・スタッフと協働し趣味・嗜好を通じて季節に応じた楽しみごとの提供を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時、他に買物や散歩に出かけている。家族にも協力いただきながら極力外に出る機械を持てるように支援している。	天気や体調に合わせて外出支援を行っている。近隣の散歩はほぼ毎日行っている。その他、ドライブや外食、買物等の外出支援を行っている。また、年1回、家族との外食を催している。外出については家族も協力的で、同伴する事も多い。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じ所持している方もおられ、買物時等には支払いができるよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも家族への電話ができるよう配慮している。季節の挨拶文などを贈る機会を設けている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に作った物や好みの物を飾ったりして季節感を演出したり、余計な刺激がないように音楽をかけたり快適な空間作りに努めている。	写真や季節感のある飾り等を多用し、テレビなどを和んで見られるように配慮している。リビングは日が入りにくい為、少しでも明るい環境になるよう、家具等の配置に工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの空きスペースや廊下にソファを設置し、一人でも、また、利用者同士でもくつろげるように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室に馴染みの家具や生活用品を持ち込まれており、使い慣れた物に囲まれた空間作りを家族と共に行っている。	写真、仏壇、位牌、テレビ、筆筒、ソファ等、利用者が自由に使い慣れた物を持ち込んでおり、利用者が安心して落ち着いて過ごせる配慮を行っている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ内部に使用方法の写真を掲示したり、日めくりのカレンダーを見やすい場所に置くことで安心して暮らせるように努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年事業計画を作成し、その人らしい暮らしを継続できるように事業理念を作っており、日々実施に向けて取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や法人の祭りでの交流以外にも、運営推進会議への地域役員や学校教諭等を招き交流を断ち切らないように努めている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームでの実践を共用型デイサービスに活かすと共に、地域の高齢化問題も運営推進会議の中で議論・検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月行事報告を兼ね、写真をスライドショーにて投影している。他に入居者の現況や、地域活動の報告等の協議しており、そこでの要望を聴く貴重な場としている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族とからの意見や、確認事項などあった際は連絡を取るようになっている。運営推進会議へも7月に参加依頼し、現状を見て頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関及び通用口は施設設備の為自動ロック式となっているが法人全体で身体拘束をしないケアの実践を心がけており、入居者に対し安全に生活できるよう常に検討している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の内部研修実施を行うと共に事業所内でも虐待に繋がるケースを防止するよう、職員と話す機会を持っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを活用し周知支援に取り組んでいる。運営推進会議でも地域包括のケアマネージャーと共に家族への周知を実施している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できる限り時間をとり、話すこと・お互い納得を出来るように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見を元に家族に呼びかけ、共に検討したり、意見箱の設置や日頃より家族と話す事で意見を傾聴していけるよう配慮している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個人面談時に合わせ自己申告シートの提出により、意見や提案を聴く機会を設けている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通しての情報収集が主となるが、研修参加の啓発に努め向上心の維持・向上に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	特に制限等は設けていない。職員それぞれの能力を活かし、働く場で自由に意見交換も出来ている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の業務内でも確認を取りながら話をしたり、法人内部研修にも組み込み教育・啓発を心掛けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施や外部研修の参加により職員のスキルアップに取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加や地域ブロックの交流会に参加し、相互の情報提供によりサービスの質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人との面談を設けるなど、傾聴に努めている。また、入居後はケアプランに反映することが出来るよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より本人同様面談を行い、不安や要望について傾聴している。入居後も引き続き意見を聴く機会を行事などを交えながら設け、より良い関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の健康面や精神面の把握に努め、必要時は介護保険以外のサービス利用も視野に入れ本人家族への相談援助の対応を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を探し、可能な限り生活上にて助け合いながら関係構築に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に接する機会を設け、本人の状態を知って頂いたり、家族を交えた支援を心掛けている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力いただきながら出来る限り支援させていただいている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性に配慮しながら、活動して頂けるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も次の利用サービスの相談援助に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話等の中から本人の思いや希望等を把握しよう努めている。又、家族の話の中からも本人の思い等を模索している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より家族からも生活歴等の情報をフェイスシートを通じて把握している。本人からも傾聴に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや日々の変化を見逃さないよう観察に努め、現状の把握・記録共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に本人・家族との情報交換を行い、ケアプラン作成に活かしている。三か月に一度の作成更新を行い、入退院や状態の変化があればその都度見直しを行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・プランチェック表・申し送りノートを活用し、情報を共有しながら実践や計画の見直しに反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や園児交流などで定期交流を図っており、それ以外にも日常的に地域に出かけるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を持ち、受診や往診を取り入れている。スムーズな相互連携の為に定期的に会議の場を設けている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と協働しながら、受診等の検討を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院に向けた情報交換を家族や担当職員を交え、医療機関と連携のもと実施している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の看取りの指針を御家族へ説明させていただいている。その上で家族や協力医療機関及び訪問介護と連携し、方針をその都度共有している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	手順の周知や、内部・外部での緊急時対応研修への参加することで、緊急対応に備えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内での訓練の実施や、外部研修への参加を行っている。近隣地域の避難場所にも指定されている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護の職業倫理として念頭に置き対応している。それぞれに失礼のない対応を心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面で本人の希望を優先、または選択できるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かくスケジュールは決めず、起床時から本人のペースに合わせて一日の流れを立てている。業務手順やスタッフの行動についても常に見直し・確認を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の移動理美容サービスの他に地域の理・美容室にて散髪を出来るよう配慮している。また、家族による散髪もして頂いている。洋服や髪に限らず、爪の手入れなど女性らしいおしゃれを出来るよう機会を設けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフ・入居者が同じテーブルにて食事をし、嗜好の把握に努めている。また米とぎや洗い物等入居者と共に行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックは日々行い、状態変化に応じて補助食品を使用している。食事形態もその都度変更し提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に本人の口腔ケアを促しているが、細かいところはスタッフにて介助している。また、定期的に歯科と相談し治療できるように配慮している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムに沿って支援している。薬だけに頼らず、食べ物・飲み物を工夫しながらスムーズに排泄できるように努めている。オムツやパッド等は個人の皮膚状態に合わせ選択している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩で体を動かす機会を設けている。必要に応じ医師と相談しながら薬の調整を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴前には、必ず本人に希望を聞き無理を強いらないように配慮している。また、入浴日を固定せず本人の希望を第一に提供を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況やその日の活動量に応じて休息を取り入れている。日中に活動を増やす事で夜間の安眠につなげていけるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に家族を含めて相談を行っており、本人に適切な薬剤の提供を心がけている。薬剤情報はファイルにまとめ往診・受診時の相談や変更を常に行えるようにしている。影響が見られたり長期にわたる服用については見直しを行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望はもちろん、家族・スタッフと協働し趣味・嗜好を通じて季節に応じた楽しみごとの提供を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時、他に買物や散歩に出かけている。家族にも協力いただきながら極力外に出る機械を持てるように支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じ所持している方もおられ、買物時等には支払いができるよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも家族への電話ができるよう配慮している。季節の挨拶文などを贈る機会を設けている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に作ったものや好みのものを飾ったりして季節感を演出したり、余計な刺激がないように音楽をかけたり快適な空間作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの空きスペースや廊下にソファを設置し一人、または利用者同士でもくつろげるように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室に馴染みの家具や生活用品を持ち込まれており、使い慣れた物に囲まれた空間作りを家族と共に行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ内部に使用方法の写真を掲示したり、日めくりのカレンダーを見やすい場所に置くことで安心して暮らせるように努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない